

がんばろう 南三陸町

復興第 6 6 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

南三陸町サンオーレそではま 海開き！



2017 年 7 月 15 日オープン

南三陸町志津川の人工海水浴場「サンオーレそではま」が、7 月 15 日の「海開き」にさきがけ、町・観光協会の関係者が安全祈願祭の神事を行った。

「サンオーレそではま」は 1999 年 7 月に完成し、人口海水浴場として安全を考慮した波が穏やかな施設として、被災前のシーズンには 4 万人の来場者を迎えていた。そして今回震災から 7 年目を迎えて、県の復旧工事が完了し、事業費を約 15 億円を投じ、2016 年の 5 月から復旧工事を始め、海開きとなった。15 日には、約 1000 人の親子連れなどで大いに賑わった。

安全祈願祭で玉串を奉納する



オープン前日の 14 日には南三陸町と南三陸町観光協会が海水浴場の清掃をし、15 日スタートの海の安全を確保した。また、海水浴場の安全は志津川漁協青年部が、施設と海上から遊泳の安全監視などを行なう。海岸の砂は、県北や岩手南部の山砂を大量に運び、海水浴場を整備し、波で砂の流出を防ぐため、海底に石積の塊を設置した。

翌日の 16 日には、サンオーレで「南三陸ふっこう青年会」の主催の水風船「南三陸の陣」が開催され、町内や仙台から 10 チームが参加し、親子のチームや若者たちが優勝を目指し、熱戦を繰り広げた。優勝は仙台市のチームで 8 月 20 日の福島県いわき市で開催の全国大会に出場する。

町民待望のウジエ開店！



アップルタウンに 20 日オープン

震災直後からウジエスーパーは、町民の買い物の場の確保実現に奔走し、7 年目にして

やっと完成の運びとなった。25 年には南三陸町(志津川・歌津・入谷・戸倉)の町民有志が、「早期ウジエ開店」への嘆願書を同社幹部に 2500 名を超える署名簿を手渡した。町への出店要望を嘆願書を添え町に提出するも、浸水域や道路などの市街地整備にあたり、ウジエスーパーの出店は叶わず、ウジエは「買い物バス」を町内に走らせ、南三陸町民への生鮮食料品の販売支援を行ってきた。

あれから、7 年目を迎えた 7 月に、アップル

志津川本浜町の千葉印刷 営業所に 慰霊塔建立



平成 29 年 7 月 11 日午前 10 時から、千葉印刷跡地・本浜地区跡地として、慰霊塔を立て津波で亡くなった住民と、志津川市街地への追悼の気持ちを込め、慰霊塔への真入れの法要を行った。この 10m の嵩上げをした場所は、以前の及川魚店様に位置する。今後は志津川市街地での「千葉印刷営業所」として、震災後の復興への歩みの発信の場として活用する。



法要には南三陸町志津川細浦の「徳性寺」、辻大和尚様の慰霊塔真入れ法要に引き続き、23.3.11 の東日本大震災で亡くなった「812 名(不明者込)」の御霊への追悼法要と、本浜地区の震災死となった「9 名」の方々への、慰霊供養会を同時に執り行った。

本浜町の土地と会社跡地の慰霊・感謝の意味を込めた「慰霊塔」ながら、大津波と言う自然災害で命を失った方への、供養の気持ちを込めた。南三陸町への帰郷や、また南三陸町での暮らす希望が叶えられなかった思いを念じた。30℃を遥かに超える猛暑の中で、和尚様は重たい衣を着用し、汗だくになりながらの法要だった。

この場所は志津川市街地の中心で、コンビニと BRT の駅裏にあり、柵で囲まれてはいるものの、誰でも入れて手を合わせる事ができます。当時の志津川市街地に心を馳せ、ふるさと志津川本浜町と旧志津川町を語り合う場とします。



タウンに「薬王堂」のオープン、ホームセンター「ダイユーエイト」の開店に続き、7 月 20 日町民待望のウジエスーパーがオープンを迎えた。志津川市街地の中央団地向かいの国道 45 号線沿いに、巨大なショッピングタウンが完成し、毎日のように駐車場は多くの車の、買い物客で賑わっている。今後は東団地の、北工区から、西工区からの道路も整備され、巡回バスも停まるなど町民が安心して新鮮食材の買い物ができる。

婚活事業 創造の会

第 1 号、キッカケ成立へ

南三陸町内の男性・女性会員募集中

連絡は携帯 080-1801-6399 (千葉へ)



志津川高校をもっと元気にと集う

平成 29 年度 同窓会総会

7 月 21 日金曜日午後 6 時から南三陸プラザに於いて、平成 29 年度宮城県志津川高等学校「同窓会総会」が開催され、懐かしい面々に新しい会員も加わり、40 人を超える総会となった。

来賓には最知副町長を始め、千葉教行顧問・沼倉前善子顧問、また、町議会議員の後藤清喜議員・山内昇一議員がお祝に駆け付けた。

小畑会長の挨拶では、志津川高校は 93 年の伝統校であり 1 万 2 千人の卒業生を送り出している。同窓会は『志津川高校の応援団である』と述べた。山内校長は、「皆さんのおかげで学校は活気を帯びている。懇親会には 90 名以上の参加」と話し、大いに志津川高校を語り合おうとした。

祝辞では、最知副町長が「志津川高校が元気でないと町に元気がないよね。」との声も聞こえてくると話し、町と学校で「志津川高校魂力化懇談会」も開設したと、述べた。

総会では魅力化推進事業として、志津川高等学校学習支援センター「志翔学舎(ししょうがくしゃ)」の開校にあたり 1200 万円が町から基金へ繰り込まれたと、報告があった。

また、志津川高校の戸倉出身の卒業生が、震災により父の経営する「ケنز」が休業となり、仙台市泉区に「三陸食堂ケنز」として、南三陸の食材にこだわり、漁師直送の鮮魚を提供する店としてオープンした。店主は、「南三陸町の活性化につなげたい。」と話していた。そういうチラシも配られた。



長野県飯島町の 宮澤さんから 今年も ジャガイモの支援

今年も長野県飯島町から「大地の恵み」が南三陸町に届いた。宮澤さん御夫婦が長野で出会った友人の竹澤さんの土地を借りて、現在も農業をしている。「天国の楽園」がここにはあり、初夏のじゃがいも秋のネギと手作りの野菜支援も 6 年目を迎える。

震災後に飯島町の議員さんが町に来て、被災地の調査を歌津の「泊崎荘」で行い、南三陸町の現状を伝えた。その中の一人だった竹澤さんとの出会いがあり、あれからこれまで被災地「南三陸町」の支援を、仲間と続けてくれている。昨年は、町民数名が招待された「飯島町御柱祭り」では、飯島町の地域の人達と交流があり、共に絆を深めあった。

今回も写真のようなジャガイモ袋が 10 袋届いた。限られた物資なので、どのように町民の方に配ろうかと思っている。新鮮な獲れたてのジャガイモを一日も早く、美味しいうちに食べて貰いたい。もう少し待つてほしい。

南三陸町からは何をお返しにと尋ねると、「昨年頂いた『志津川タコ』が美味しかったです」と言う。今年も同じものを送ろうと思っている。秋にはまたネギを送りますと電話で話していた。

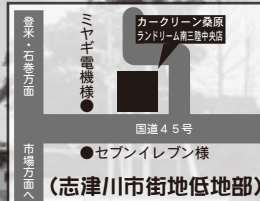
(支援受け皿 千葉印刷)

お盆用の野菜・くだものは、 大畠青果で！

(コメリ様隣り)

食卓には美味しい
なっちゃん焼きこいを！

旧駅前店から リニューアル



カークリーン桑原・ランドリーム南三陸中央店 オープン！

皆様のご来店を
お待ちしております

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成29年(2017年)
～ 地元報道より ～

4月の出来事

南三陸町

◆3月30日に新八幡橋が完成し、国道398号の道路が供用を開始した。高さは海拔13.4mで、志津川復興道路の工事費は約27億円で残り400mは今年度内に整備される。30日の午後2時に開通した。

◆南三陸町道の駅整備推進協議会(三浦洋昭会長)が31日に、佐藤町長に「一日も早く道の駅」をと基本構想を提出した。さんさん商店街の周辺を含めた3.2haの整備を提案している。今後、基本構想に対するパブリックコメントを実施する。

◆南三陸町の辞令交付式があり、職員約270人が出席した。そのうち派遣職員は81人を占める。

南三陸町は子育て支援の加速へと、南三陸町小中学校の「給食費無償化」を検討している。費用、財源を精査し年内に結論を出す。児童・生徒は約800人で、1日の食費は小学校で平均280円、中学校では平均330円で、無償化とした場合は年間で4千万円から5千万円となる。実現すれば七ヶ浜町に続き県内2番目となる。

◆NTTドコモは全国の社員からの募金700万円を、南三陸町に「観光や産業振興へ」と送った。町は情報発信や地域の活性化施策に活用する。

国勢調査(2015年)による南三陸町の住民の移転先は、1位が登米市の1908人で、2位は仙台市の617人となり、他県への転出は457人だった。転出先の合計は3706人だった。

◆3月3日にオープンした「新さんさん商店街」は、来場者の出足が順調で1ヵ月で19万人となり、年間目標の2割に達している。

◆1991年に建設された「平成の森野球場」の改修工事が完了した。完成祝いとして6月に楽天戦が予定され、甲子園と同性質の土やコボパークと同じ芝を使用している。佐藤町長は早急に、高校野球大会の会場にと県高野連に申し入れをすることとしている。

全国そろばんコンクールで、南三陸町「育英学院」の塾生が小学校1年生以下の部で4人が「全国ベスト100」に入った。入賞したのは、志小1年千葉萌々夏さん・入谷同小野寺愛優さん・伊里前同千葉裕加里さん・横山保育所年中奥田梨智さん。

◆来年4月からの提供開始に向け、7日学校給食センター復旧の地鎮祭が行われた。中央区の新井田地区への新設で、以前のセンターの1.5倍にあたる945㎡で、復興交付金など約7億円で建設。町内5小2中の給食を最大で1000食を提供する。

◆南三陸町入谷地区で「南三陸ワインプロジェクト」が本年度からスタートし、23日に第1弾の植樹祭が行なわれた。昨年から地域おこし協力隊として移住し委任された。遊休地でブドウを育成し、ワインで地域おこしを目指す。

◆南三陸町は「地域ブランド」の推進のために事業団体を募集している。各活動とも上限100万円で、昨年は2団体3事業で300万円だった。今年度予算として400万円を計上している。

◆南三陸町は南三陸病院の、2016年から20年までの経営改善への計画を策定する。収入増加について健診や人間ドックといった予防や、透析強化を盛り込んだ。団魂の世代が75歳の後期高齢者となる25年は、高齢化人口が16年の1.2倍となり、約4割を占める。経常収支比率は16年度「89.7%」で、20年度には97.8%を目標にする。

◆宮城県漁協は今年もホヤを処分へ。消費拡大などで減らす方針だ。処分は収穫した約1万3千トンのうち約58%の7600トンに上る。

◆南三陸町波伝谷漁港の養殖銀サケの水揚げが13日から始まった。脂の乗りも上々で、単価は昨年並みのキロ当たり700円以上で取引されている。同支所は今期の目標を1400トンとしている。

昨年6月の熊本地震へ支援として行っていた、志津川小学校の中松教諭が任期を終え帰町した。熊本県御船町立滝尾小学校で、東日本大震災の経験を活かし、カウンセリングなどによる、心のケアや学習支援・防災学習などを行なった。

◆15日午前9時50分頃、入谷箒畑で野焼きが延焼した。自力で消火したが、消火とならず119番通報し、同11時11分に鎮火した。

◆17日南三陸消防署歌津出張所が新築移転と

なった。供用開始は5月1日で、テーブルカットを行い防災拠点の完成を祝った。3キロ圏域にある14地区の災害公営住宅に5分以内に到着できる。建設費は約2億1600万円で、国の災害復旧費を活用した。

◆歌津伊里前川のシロウオ漁は、良好で上々の滑り出しとなり、5月14日には福興市で、シロウオの美味しさを、多くの来場者に楽しんでもらう。

◆衆院小選挙区の新区割り案では、南三陸町は5区に編入される。佐藤町長は見直しを要望。

南三陸町復興推進ネットワークの「南三陸おらほの酒づくりプロジェクト」では、2014年から復旧した水田で収穫した米で、清酒「おら酒」を製造した。昨年は純米吟醸「おら酒・雷神」を販売し、今回も昨年と同じ戸倉地区波伝谷の米から純米大吟醸「おら酒・風神」が完成した。約1700本を販売する。4合瓶(720ml)3千円で、インターネットや地元酒店で販売している。

◆4月28日歌津地区の旧伊里前商店街が「ハマーレ歌津」としてオープンした。式典には関係者や住民約100人が集まった。45号線沿いに5m嵩上げた所に、仮設から6店舗に2店を加えた8店舗でスタートした。事業費は約1億9400万円で約7割は国の補助による。

南三陸町災害公営住宅などの家賃請求の8地区738戸が一部に遅れが発生している。請求を発送する公社へ、町から書類が上がっていなかった事が原因で、佐藤町長は事務処理体制の確立を早急に図る考えを示し、議会の席上で陳謝した。

◆今村復興大臣の「まだ東北で良かった」発言に、気仙沼・本吉地方の住民は怒りと悲しみなど憤りの声が相次いだ。現職だった復興大臣の言葉には失望感に被災地は包まれた。

◆南三陸町子ども会議が開催され、本年度も「子育て世帯応援券事業」の継続などが報告された。

◆南三陸町は「子育て世帯応援券」の支給を本年度も開始した。2016年4月1日以降に生れた子供で、出生児は第1子が3万円・第2子5万円・第3子以降は10万円分。17年4月に町内に入学児には1万円支給する。子育て家庭への生活支援として町内商店で使う商品券で、経済の活性化も図れる。

◆復興みなさん会で、新しい街がひと目でわかる「歌津マップ」を製作した。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

4月の出来事

気仙沼市

◇11月に移転予定の気仙沼市立病院は、25年度黒字化への基盤作りを目指した「改革プラン案」をまとめた。

◇気仙沼市の退職辞令式で、定年や自己の理由で75名の退職となり市立病院も含め47名が式に臨んだ。昨年よりも14人多い。また、派遣職員の79名には任期終了で解任辞令を公布した。

旧気仙沼市さくらボーリングで「街コンボーリング」が行われ、9組のカップルが誕生した。「ボーリングを通して男女の出会いを」と開催された。気仙沼出身のマギー審司さん・俳優の村田雄浩さんを中心に、気仙沼支援の「エムズ・ファミリー」と同店が企画した。市内・岩手県一関市などから、男性30人と女性24人が参加し、告白タイムで9組のカップルが誕生し盛り上がった。

◇気仙沼市の「新婚補助」の受け付けが、4月1日から始まった。市内在住で夫婦の所得証明が340万円未満で、アパート代など最大で24万円が支給される。

◇気仙沼港の「がんばる漁業復興支援事業」の近海マグロの集団操業の初年度は、数量・金額とも上々で、計画を上回り1億8300万円となった。

◇国勢調査による気仙沼市の転出先は、1位が仙台市の1910人で2位が登米市の191人、他県への転出は3462人で、全体で6794人だった(2015年)。

◇気仙沼市医師会付属准看護学校で、38人が新たな一歩をスタートした。

◇気仙沼市の平成17年度の保育所入所児童数は562人となり、低年齢児のニーズでは、0歳で33人・1歳で97人・2歳も121人にのぼる。小規模保育所は3～5歳までで56人となっている。

◇気仙沼市観光受け入れ態勢整備推進協議会は、本年度もJR気仙沼駅を起点に市内の巡回バスを運行する。10月末までは1日3便を予定している。

気仙沼市の人口減少が止まらない。3月末時点で6万5千人、自然減は600人以上となった。出生が355人で前年度より31人増加した。死亡は984人と前年度の924人を上回った。その反面に世帯数は142増加した。

◇4月末から「気仙沼クールカード」がスタートする。加盟店は50店で、飲食店・民宿業・小売店などで会計時にポイントがもらえる。1ポイント1円となるが期限は最長2年。

◇国勢調査による気仙沼市就業人口は、製造業が震災前より3割減少しているが、建設業は復興需要で4割増となっている。

◇気仙沼市の「公営住宅管理費用」が、年間2億円が見込まれる事がわかった。市は家賃収入などから剰余金を昨年度から基金積み立てして、国の交付金や基金で維持費を工面する。

◇2018年の気仙沼本吉道路Ⅱ期で、本吉高地区で国交省仙台河川国道事務所の説明会があり、パーキングエリアに駐車場計画やトイレ配置など整備が予定どおり進んでいる。

◇気仙沼市鹿折地区の「かもめ通り商店街」が23日「街びらき」で復活する。来場者には熊谷桜をプレゼントする。

気仙沼市の28地区35団地の災害公営住宅と戸建ての合計で2087戸、整備費総額は約605億円となった。1戸あたり2900万円が建設にかかり、整備当初より5%(26億円)増加した。

◇「稼げる観光地づくり」を目的とした、気仙沼DMO(地域経営法人)の中核となる「気仙沼観光推進機構」が24日誕生した。独自ポイントカードの導入など、地域経済の活性化を加速する。

◇気仙沼市外在住者を対象とした、さまざまな情報発信やサービスを提供する「気仙沼ファンクラブ」の会員数が8千人を突破した。昨年より3割増加している。

◇被災から6年、「水の水族館」が復活する。気仙沼海の市内に完成し、光や特殊映像で魅力をアップした。一般公開は29日からとなっている。

気仙沼市のUターン希望者向けの初の職員採用試験の受験者が、例年の4割増となった。

◇気仙沼市のマイナンバーカードの申請者が6700人となり、人口の1割を超えた。